

◎ 死別の分かちあいの集い：14時～16時

- ・伴侶：毎月**第一土曜日** (9/7、10/5、11/2)
- ・子ども：毎月**第一日曜日** (9/1、10/6、11/3)
- ・自死：毎月**最終土曜日** (9/28、10/26、11/30)

予約も参加費も不要です。遅刻も早退も構いません。辛い寂しいお気持ちをお吐露してください。超覚寺門徒でなくても参加できるので、お知り合いの方にも是非ご案内ください。

『参加された方の感想：冷たくなった主人に、有り難うとも言えず、悔しさと情けなさに悩んでいた。「八丁堀だより」で死別の分かちあいに目がとまり仲間入りした。どなたのお話も悩みが多く、つらいのは皆同じ。心が落ちつき、参加して良かった。だが一つだけ気になる事に、一度きりであと来られない方がおられる。一度きりの出会いで、何かを得たのであれば嬉しいが、どうされたのか気になっている。自信を持って、お悩みに対応出来る様になりたい。(笠間トミヨさま)』

◎ 浄土真宗基礎講座：毎月**最終日曜日** 14時～15時

今後の開催日 ⇒ 9/29、10/27、11/24、1/26

親鸞聖人が記された正信偈の講義や読経の練習をしてあります。雑談も多いお気楽な講座です。初めての方も遠慮せず、どうぞご参加ください。

◇ 報告・連絡・“僧”談

・この寺報「八丁堀だより」と施本「茉莉花」は毎回約330部お配りしております。発行してから早一年半、感想や質問、アドバイスをいただいたり、予想以上の反響で嬉しく思います。届きましたら是非ご家族全員が集まる場所に置いてください。離れて暮らす家族にも読ませたいとお考えの方、宛先をお教えいただければ、そこらにも発送いたしますので、遠慮せずお申し出ください。

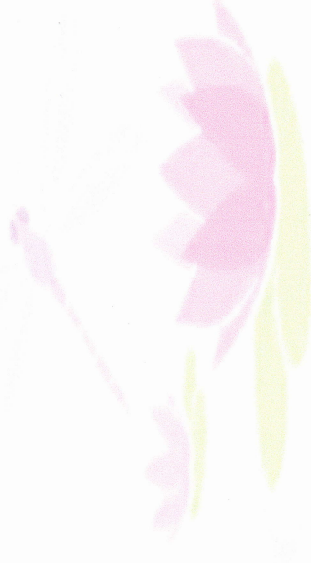
・昨年、彼岸花の球根を境内のいたるところに植えました。間もなく開花の時期です。イメージ通りに花が咲いてくれるか、楽しみであり不安でもあります。

発行人：超覚寺住職 釈隆恩(和田隆彦) (*--*)人い合掌

2013年9月秋 超覚寺報 第8号

【八丁堀だより】

お内仏(お仏壇)に仕舞い込まず、
ご家族みなさんでお読みください。



真宗大谷派(東本願寺)



林鶯山 超覚寺
憶西院

RIN-OKU-ZAN OKU-ZEI-IN CHOH-KAKU-JI
(since 仏暦2002, 西暦1619, 元和5)

〒730-0013 広島県広島市中区八丁堀 5-2

Tel : 082-221-1234 ; 090-9999-3113

Mail : otera@kme.biglobe.ne.jp

HP : <http://namuamidabutsu.com>

超覚寺 秋の法要のお知らせ

慈光のもと、平素は様々にお世話になっておりますこと、
ありがとうございます。

さて、下記の通り法要・法座を勤修いたしますので、
ご参詣くださいますよう、ご案内申し上げます。 <(_ _)>

◎ 秋季彼岸会(永代経)法要

9月23日(月・祝) 14時～ 勤行・法話(住職)
15時～ 休憩・茶菓タイム
15時半～ 八丁堀寄席
(落語家 笑福亭仁智師)

※ 笑福亭仁智(しょうふうくていじんち) 師
○ 1952(昭和27)年 大阪府羽曳野市生まれ
○ 1971(昭和46)年 笑福亭仁鶴師に一番弟子として入門
○ 上方の古典落語と創作落語に取り組み、テレビ・ラジオ等で活躍
○ 1992(平成4)年より「お寺数珠つなぎ落語会」「伊勢参り落語会」
などチャリティー寄席を毎年開催し収益金を寄付されています。

◎ 報恩講法要

11月10日(日) 10時～ 勤行・法話・粗齋(おとき)
13時～ 市内住職出仕勤行・法話

御講師：広島市比治山 法正寺住職 泉原寛康 師
※ 前日11月9日は仏具のお磨き、おとき(昼食)の準備を行ないます。

◎ 2013年の年回忌に該当する方はご確認ください。

・2012(平成24)年：1周忌 ・2011(平成23)年：3回忌
・2007(平成19)年：7回忌 ・2001(平成13)年：13回忌
・1997(平成9)年：17回忌 ・1989(平成元)年：25回忌
・1981(昭和56)年：33回忌 ・1964(昭和39)年：50回忌

◎ 12/18～20(水・木・金)の東本願寺お煤払い奉仕団

東本願寺境内の同朋会館で二泊し、講義・座談・諸殿拝観などで過ごしますが、今回は東本願寺本堂の清掃奉仕がメインになります。親鸞聖人のお墓(大谷祖廟)への参拝も予定しております。

寒い時期ではありますが、この時期しかできない団体参拝です。総費用は御布施・食事・運賃込みで4万円です。参加者募集中ですので関心のある方は是非ご連絡ください。

主なスケジュール予定

・12/18 8:37～10:14 新幹線 広島⇒京都
10:40 東本願寺同朋会館入館
11:20～ 結成式・昼食
13:00～ 東本願寺諸殿拝観・清掃奉仕
16:30～ 夕事勤行・夕食
18:30～ 講義・座談
20:30～ 入浴・就寝
・12/19 6:00～ 起床・清掃
7:00～ 晨朝参拝・朝食
9:00～ 大谷祖廟(東大谷)参拝
11:30～ 昼食:南禅寺湯豆腐(奥丹)
13:00～ 記念写真撮影・清掃(紙帳吊り見学)
16:30～ 夕事勤行・夕食
18:30～ 講義・座談
20:30～ 入浴・就寝
・12/20 6:00～ 起床・清掃
7:00～ 晨朝参拝・朝食
9:00～ お煤払い(終了後、入浴)
11:20～ 解散式・昼食
13:30 東本願寺同朋会館退館
15:13～16:59 新幹線 京都⇒広島

☆ 仏教の言葉 【 往生の素懐 】

御葬儀の表白文に「…今や往生の素懐を遂げて…」という文言があります。仏教では死ぬことを「往生」と言います。「立ち往生」のように困り果てる意味で使うこともあります。本来は仏教語で「極楽浄土へ行き、仏として生まれる」という意味です。また「素懐」はかねてからの願いとという意味なので、「往生の素懐を遂げる」とは、「仏の浄土に生まれたいという願いが達成される」という意味になります。

さて、「往生の素懐」は、成仏したいという私たちの願いでもあります。実はそれ以上に阿弥陀仏の「一切衆生を救いたい」という願いでもあります。ただ単に死ぬのではなく、生あるうちにお念仏の教えに出逢い、いのちを終えて浄土に往て仏となる。その教えに生きるからこそ、死を「往生の素懐」と言えるのです。

辛く悲しい出来事ではあるが、でも故人は間違いなく往生されたのだ、そして自分もいつか必ず同じ浄土へ往生するのだ、と受け止めなければなりません。立派だった人も普通の人も、長寿の人も短命だった人も、生まれ方・生き方・死因を問わずに往く世界が、阿弥陀仏の西方極楽浄土なのです。先に往かれた方は仏として私たちに寄り添い、私たちもいつか大切な方の仏と成る。絶える事のない、いのちの繋がる世界がそこにはあるのです。

ですから、真宗門徒は故人の「冥福を祈る」必要はありません。亡くなった方は冥土で不幸になっているのではなく、悩み苦しみのない極楽浄土に往っているので、冥福(冥土での幸福)を願わなくても良いのです。

☆ 【 お煤払い(おすすらい) 】

毎年12月20日の、今では京都の年の瀬の恒例となった行事です。東本願寺のお煤払いを長年支えてこられた尾張清浄講の方々と一緒に、全国各地からのご門徒や本山職員などが参加して行われます。御影堂に横一列になって一斉に割り竹で畳を叩き、出た埃(ほこり)を2メートルもある大うちわで外へ扇ぎ出します。

お煤払いの後、新たに御堂の荘厳を整えてお給仕を始めるため、ご門首が紙帳に竹の棒で「寿」の字をなぞられる「御規式」が行われます。

☆ 【 お彼岸 】

春の彼岸は3月20日頃の「春分の日」、秋の彼岸は9月20日頃の「秋分の日」です。いずれも「暑さ寒さも彼岸まで」といわれるように季節の境目になります。そして、この日は太陽が真東から出て真西に沈み、昼と夜の長さが全く同じになります。お経には西方に阿弥陀さまの国があると書いてあります。つまり、沈んでゆく夕日が仏さまの国を教えてくれているのです。

ところで、私は高校時代の秋分の日に、敬老のお祝いで家族親戚と海辺の旅館に旅行したことがあります。夕食前の空き時間に、みんなで浜辺に出ました。その時ついよに行った祖母が、「みんな、ちよとおいで、ちよとおいで」と呼んで、海の向こうを指差しました。言われたとおり海を見ると、真っ赤で、しかもとても大きな夕日が、今まさに沈もうとしていました。だんだんと下から少しづつ欠けて、やがて見えなくなっていました。そして、わずかに夕焼け雲だけが赤く染まり、それもやがて消えていきました。海のないところで育った私は、それを見てとても感動しました。その時、近くにいた祖母が、「今日はね、お日さまも、仏さまの国へお帰りになる日なの。あの真っ赤なお空の向こうに仏さまの国があるの。おじいちゃんも、あのお空の向こうの仏さまの国にいますよ」と言われました。それを聞いて、何だか胸が熱くなった記憶があります。

彼岸とは、仏教の原語ではパーラミタ、訳して「到彼岸」といいます。人間中心に生きているこの世界を「此の岸」にたとえ、此岸から仏さまの世界(お浄土)である「彼の岸」に至ることをいいます。還る世界、つまり仏の世界を見定めて、その教えを聞く歩みを始める日が、お彼岸です。日本人の暮らしにすっかり溶け込んでおり、行事としては古くから「彼岸会」として勤められてきました。信なき者が法を聞いて信心の彼の岸へ到るということで、人間生活のまことの意義を示すものです。此岸に生きる私たちが迷いの世界からお浄土の岸に到ることを願う仏事なのです。

今年の秋彼岸は9/23、三連休なので旅行に出る方もいらっしゃるでしょうから、最終日の午後からのスタートにしてみました。春彼岸は午前中の法要でしたが、どちらがよりお参りし易いか、皆さんにお尋ねしようと思います。

◇ “寺”後報告

① 古本勧進

不要な書籍を集めて、その売却代金を東日本被災地復興支援のために寄付するプロジェクトです。おかげさまで超覚寺にはダンボール2つ分ほど集まりました。引き続き募集中です。お寺の車で引き取りに伺うこともできます。

② 7月28日(日) 第1回婦人会準備会

今回は6名参加いただきました。初めに本堂の仏具のお磨きをしました。お寺の仏具を実際に手に取って、そのサイズ感に皆さんビックリしていました。錆びないようにセラミックコーティングをしているので磨き粉を使う必要はありませんが、布で拭くだけでも結構汚れていることが分かりました。どこをどう磨くかお互いアドバイスしながら、約30分ほどで磨き終わりました。

次に、約50年前の婦人会に関わっておられた方から当時の様子を伺いました。それを参考に、新しい婦人会の在り様を話し合いました。活動内容（法座への参加、仏具お磨き、東本願寺への奉仕参拝等）や活動費について、様々なご意見を賜りました。次回は9/23の秋彼岸会終了後に開きます。



③ 8月6日(火) & 8月9日(金) 原爆死没者追弔会

延べ11名がお参りされました。今夏は被爆体験談を話して下さる方が幾人もいらしゃいました。その時は墓参り中でちょうど墓石の陰に居たので命拾いされた方・・・、本堂のすぐ東側に家があったのでピカの直撃を免れた方・・・、生死って本当に紙一重なんだと、命の不条理をあらためて感じました。

④ 8月14～16日(水～金) 孟蘭盆会法要

延べ44名がお参りされました。今年は猛暑で、しかも雨が全く降らない夏でした。お墓に供えられた色花は一日も持たず、枯れる前に腐ってフニャフニャになっってしまうものもありました。そうなっては墓石に張り付いて跡が残ってしまう場合もあるので、早めに花を抜いていました。再度お墓参りされて既に花が無いのを怪訝に思われた方には申し訳ありませんでした。

この期間中にお供えいただいた墓参板・柁・色花・盆燈籠は後日一斉に廃棄処分されますが、以前の板では「南無阿弥陀仏」自体を粗末に扱うことになるので、昨年から阿弥陀経の文言「俱会一处」を用いることにしました。なお写真の右2枚の上部の紋は東本願寺の“八藤紋(はっとうもん)”です。字体は、境内の墓石の文字と同じ書家の先生に依頼しました。

